

作文部門

文部大臣奨励賞

「お母さんの
ダイエット大作戦!」

徳島県鳴門教育学大学

学校教育学部附属小学校

四年 橋倉 健太



「あらあ、いやだ。また、去年のスカートがきつうなつとる。」
季節が変わり、衣替えの時期になると決まって聞くお母さんの台詞だ。

「スカートがきつうなつたんとちがつて、自分が太ったんだろ。」

お父さんが横から、からかう。

「本当に、やせないかんねえ。ダイエットメニュー考えるからみんなも協力してね。」
この言葉も何度聞いただろう。

周りの人から、

「最近少し太ったね。」

と言われて自分も気に始めた頃、

「お母さんだって昔はこんな時があったんよ。」

なんて写真を見せてくれたことがあった。まるで別人みたいで僕はうっかり、

「じこのお姉ちゃん?」

と聞いてしまふところだった。その頃のお母さんはとてもスリムで、ミス・白バラとかいうのに選ばれていてテレビや新聞に出たり、写真のモデルもしたりしたことがあったそう。それが今や……

とにかく僕のお母さんは食べることが大好きで特にチョコレートには目がない。先日もおばあちゃんに連れ

て行ってもらったハウステンボスのチョコレートハウスの中にあった「チョコレートの滝」の前で立ち止まりニコニコしながら「おいしそう。」を連発していた。車を運転している時も、信号待ちなんかでケーキ屋さんの前に止まると、じーっと店の中をのぞきこんでいるのだ。それに、好きなのはお菓子だけじゃない。

「健ちゃんにいっぱいおいしい物作ってあげるね。」
と言いながら自分の好物のグラタンや焼き肉、ステーキを大量にこしらえてしまう。そして

「もう食べれん、苦しい。」

と僕が言うと、

「健ちゃんは育ちざかりなんやからしつかり食べなアカんよ。」

それでも、ギブアップすると、

「せっかく手間ひまかけてこしらえたのに、もったいない。」とペロリ。太るわけだ。

お母さんに言わせると自分が太った理由というのは、こうらしい。

「健ちゃんに愛情いっぱいのお料理を食べさせてあげたくて、手ぬきさんと一生懸命作ってたんよ。でも健ちゃん小さい時からよく残してたから、捨てるのもったいなくて食べてたら、こうなっちゃった。」

何となくこじつけている気もするなあ。でも、本当に僕のお母さんはおそうざいなんかをお店で買わずに、毎日一生懸命作ってくれる。とてもおいしいんだけど……量が多い。

そんなある日、突然運送屋さんから大きな箱が届けられた。

「ああ、やつと来た来た。」

お母さんはうれしそうにリビングへ運んだ。

「何? それ。」

「ジャーン! ダイエットマシンよ。」

走っても進まないベルトコンベアーと自転車のペダル、震動ベルトまでついているおそろしげな機械だ。

優秀賞

優良賞

「この世に生まれてよかった」

鹿児島県加世田市立万世中学校

二年 相村 かおり

みなさんは、この世に生まれてきてほんとうに幸せだと思いませんか。それとも、生まれてこなければよかったのにもと思いませんか。

私は、生まれつき耳が聞こえません。先天性の難聴なのです。でも、私は

「この世の中に生まれてこなければよかったのに……」

などと思ったことは、一度もありません。また、健常者との違いに負けてはならないと思っています。たとえばどんなにつらいことがあっても、それをじっと耐えて生きていくうちには、きっと楽しいこともあるはず。障害を持っている私は、みんなから

「かわいそうね。」

などと同情などしてほしくありません。私がほしいのは同情の言葉ではなく、

「聞こえないってことはほんとうにたいへんなことなのだなあ。」

という理解がほしいのです。同情と理解は違います。

これから多くの人に迷惑をかけたり、苦しみ悩んだりすることもあるでしょうが、それらに負けることなく強く生き、「この世に生まれてほんとうによかった」という思いを、もつともっと強く感じられる自分になりたいです。

障害を負担に感じるのではなく、前向きに一生懸命生きていくのだから、かおりさんの力強い生命力が感じられる作品です。相手の立場で物事を考えることの大切さを、読み手の心に深く刻みつけてくれます。

「赤いオーバーコート」

愛知県豊田市立五ヶ丘小学校

五年 関口 萌可

お下りのオーバーコートからもの大切さを考えさせてくれる、という視点が新鮮な作品です。お母さんに、お下りのオーバーコートをもらい受けてからの時の流れ、愛着の深まり方がとてもよく表現され、読み手の気持ちを温かくさせてくれます。

「真心の贈り物」

群馬県群馬大学教育学部附属中学校

一年 林 早恵

「見知らぬおじいちゃん」との出会いでは「げげんそんな顔」をしていた早恵さんが、「出会ってくれてありがと」と言えるまでの心の変化がよく表現されています。早恵さんの心の成長記録ともいえる作品です。

「生を受けて、今——」

群馬県前橋市立芳賀中学校

三年 林 友里

身近な人の死に接して、改めて生きることの意味を見つめた作品です。重いテーマですが、尊敬している二人の祖母の生き方を目のあたりにして、どのように生きていくべきなのか、友里さんの主張がしっかりとまとめられている力作です。

（オカアサン、ホンキデヤルキナノダ。コノキカイデカラダヲカイゾウスルキナノダ。）

僕とお父さんは思わず目を丸くして顔を見合わせた。箱を開けながらお母さんは鼻歌まじりだ。

（いつまで続くんだろう。）

それでも体重の増減表までこしらえて、お母さんはやる気満々だ。

そして数日後——。

ダイエットを始めてから、お母さんに新しい口ぐせができてしまった。

「お母さんだつてがんばっているんだから、健ちゃんも秋の珠算大会、優勝三連は目指して練習がんばらなさいよ。」

（何も関係ないじゃないか。僕の珠算大会とお母さんのダイエットなんて、冗談じゃないよ。いい迷惑だなあ。）

と思ひながら、

「ねえ、少しはそのマシン効果あったの?」

と聞いてみた。

「まだまだ。これからよ。ほら、おしゃべりせずにファイト! ファイト!」

そんなわけで、マシンが届いてからというもの連日、「ワン・ツー! ワン・ツー!」

とやってくるお母さんの横で僕は、

「ねがいましては——。」

とバチバチやっている。

それでも僕は心の中でつぶやいた。

（お母さん、太っててもいいけど体には気をつけてよ。そして今までみたいにいっぱいごちそう作ってよ。お母さんのお料理、僕大好きだから……。）

▶お母さんのダイエットの様子や、家庭内への影響を、するどい観察力と、お母さんに対する温かい愛情でえがいています。文章全体に、ユーモアと躍動感があり、健太くん自身が楽しみながら書いているのが、読み手にも伝わってくるいきいきとした作品です。

「ぼくのいもうと」 (岡崎市立三島小一年) 磯田 竜也
「祖母の死を見つめて」 (上屋久町立宮浦小五年) 牧 みどり
「私達とボランティア」 (豊田市立五ヶ丘小六年) 阿部 麻耶子
「人間の優しさ」 (須明館中一年) 久藏 公人
「海と私」 (大阪市立北稜中三年) 戎野 彩子

「だいすきなきこり」 (愛徳学園小一年) 金子 歌穂
「大こんをしゅうかくしたよ」 (秋田市立高清水小二年) 小川 庸子
「うずまき口ポット」 (豊田市立平井小二年) 川崎 伸彦
「お父さんの仕事の手つだい」 (西尾市立福地南部小三年) 日高 康裕
「ガソリンがない」 (上屋久町立宮浦小四年) 南 彩香
「野菜無人直売所の手伝い」 (豊田市立五ヶ丘小五年) 横山 浩美
「こわかった海」 (光華小五年) 中瀬 理恵
「もういやだ」 (豊橋市立大村小六年) 浅野 有美
「貴重な経験」 (岡崎市立常盤中二年) 都築 麻由
「我が家の地球にやさしい暮らし方」 (岡崎市立常盤中二年) 久万 歩

★総評★

今年も気持ちのこもった作品が、多数寄せられました。特に小学校高学年から中学生にかけての作品は水準が高く、日常生活のなかからの感動を上手にまとめたものが多く、印象に残りました。

ただ、全体的に漢字がちがっていたり、話し言葉と書き言葉の使い分けができていなかったりした作品が多かったように思います。書いたあとで、もう一度読み返すと、よりすばらしい作品になると思います。